



第 74 号(2020 年 11 月 1 日)  
 LET 九州・沖縄支部事務局発行  
 〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1  
 熊本学園大学 研究棟 302 号  
 林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)  
 E-mail: secretariat@j-LET-ko.org  
 編集: 大下晴美・竹野茂・事務局

June 2020 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 74

Table of Contents

・第 60 回 LET 全国研究大会の予定と秋季シンポジウムのご案内(植田正暢)	1 頁
・Zoom と Moodle を用いたインタビュー試験の実践とそのフィードバック ー大分大学における実践例ー(大下晴美)	2 頁
・2020 年度支部総会報告(長加奈子)	5 頁
・2020 年度外国語教育メディア学会理事会報告(植田正暢)	7 頁
・事務局からのお知らせ	10 頁
・編集後記	10 頁

**第 60 回 LET 全国研究大会の予定と秋季シンポジウムのご案内**

LET 第 60 回全国研究大会実行委員長  
 植田 正暢 (北九州市立大学)

支部だより前号では、9 月開催予定だった第 60 回全国研究大会を来年まで延期することになったことをご報告しました。その後、新しい生活様式にあわせた大会の開催方法が支部長連絡会議および理事会で検討され、来年 2021 年 8 月 20 日(金)～22 日(日)の日程で第 60 回大会をオンラインで開催することが決定しました。7 月 25 日の支部総会では北九州市内での通常どおりの大会を開催する予定であることを申し上げましたが、会場の確保が難しいこと、および新型コロナウイルスのワクチン開発が進んでいるとはいえ、来年上半期の時点

でコロナウィルスが一掃されている保証はなく、いわゆる 3 つの密を避ける状況が依然として続く可能性があることを考慮し、オンラインで開催することに決めました。

大会テーマは当初予定していたものから変更はなく、「外国語教育におけるユニバーサルデザインの現状とニーズ」となります。講演・シンポジウムの講師の先生方には大会が延期になってもご講演いただくことを快く引き受けていただきました。基調講演には、竹田契一先生(大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学 LD センター顧問)と飯島睦美先生(群馬大学)を

お迎えし、竹田先生には「発達に課題を抱える児童・生徒への英語教育について」という演題で、飯島先生には「ユニバーサルデザイン英語教育:知ること、気付くこと、気付くことで始まる手立て」という演題でご講演いただきます。シンポジウムは、雪丸尚美先生(北九州市立大学)、村上加代子先生(甲南女子大学)、佐藤良子先生(麗澤大学)にご登壇いただく予定です。

LET 全国研究大会をオンラインで開催することは、本学会としては初めての試みとなります。オンラインで開催する場合、時間と場所に拘束されずに大会を計画できるというメリットがある一方で、すべてのプログラムをオンデマンドビデオを利用した非同期型のプログラムにすると参加者間のコミュニケーションがとれなくなってしまうというデメリットがあります。ライブ配信のような同期型プログラムとオンデマンド配信のような非同期型プログラムをどのように組み合わせるかを現在、検討しているところです。近いうちに大会の詳細についてお知らせできると思いますので、もうしばらくお待ちください。

現在準備が進んでいる全国研究大会では、「第2でがんばる利用者」という作品を大会ホームページやチラシなどで使用しています。この作品は北九州市かがやきアーティストとして活躍している月森聡美さんによるものです。北九州市かがやきアーティストの作品は、北九州

市身体障害者福祉協会による障害者アートを普及させる活動の一環として、同協会のウェブページに公開されています。秋の夜長に作品を鑑賞なさってみてはいかがでしょうか。



【第2でがんばる利用者(月森聡美さん作)】

最後に、全国研究大会に先立ち、九州・沖縄支部では年度内にオンラインによるシンポジウム「コロナ禍における遠隔授業よもやま話」を開催する予定です(日程は未定)。遠隔授業の苦労話や悩みを他人と共有する機会がなかなかない昨今の状況ですので、ぜひご参加いただき、同じ苦労や悩みを持っている人となりが作っていただけたらと願います。また、オンラインで開催する大会のテストケースとしても位置づけられるものですので、オンライン大会の雰囲気を楽しんでいただければとも思います。

秋季シンポジウムと全国研究大会でみなさまにお目にかかれることを楽しみにしています。

## Zoom と Moodle を用いたインタビュー試験の実践とそのフィードバック

### —大分大学医学部における実践例—

LET 九州・沖縄支部運営委員  
大下 晴美 (大分大学)

医学生にとっては、臨床実習に進むために OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 日本語で行われる医療面接や身体診察などの基本的臨床能力を評価する実技試験) の合格が必須となっています。大分大学医学部では、医療の国際化に対応できる医師の育成を目指し、この OSCE の医療面接の部分を英語で行うことができるように、毎年4年生に対して臨床前教育の一環として集中講義で指導しています。

コロナ禍以前の対面授業では、この授業の医療面接のインタビュー試験は1学年約110名の学生に一斉に以下の手順で行って来ました。

- (1) 患者役と医者役のペアに分ける。
- (2) 患者役には応答内容を試験直前に渡す。  
(医者役には見せない)
- (3) 医者役は患者の応答に合わせて英語で医療面接を行う。
- (4) ペアに1台 iPad を渡し、医療面接の状況を録画する。

しかし、コロナ禍の今年は、密を避けるため Zoom と Moodle によるオンライン授業・オンラインインタビュー試験となり、試行錯誤の末、以下の要領で実施しました。

**【授業】**(以下の流れをテーマごとに反復)

- ・Zoom を用いた基本的表現や英語医療面接の概要・注意事項に関する説明
- ・Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて3-4人程度のグループに分け、模擬患者役・医者役に分かれての会話練習(この時、教員は各ルームを回り様子を確認)
- ・Moodle の小テスト機能(記述問題)を用いて、練習した会話内容を基にした対話文の作成
- ・小テストの制限時間後、Moodle の解答を基に、Zoom で画面共有をしながら解説

**【インタビュー試験】**

- ・Moodle に試験官(教員:模擬患者役)4人分の Zoom 窓口を設置(学生は指定された窓口から指定された時間に入室)
- ・教員は Zoom の録画機能を用いて全インタビューを録画
- ・学生は指定された時間に Zoom の待機室に入室
- ・教員は待機室内の学生1人 Zoom に招待し、インタビュー試験を実施。終了した学生は自分で Zoom から退室し、教員は次の学生を招待する。

インタビュー試験は、1人5分程度で実施され、90分×2コマの授業時間内に無事に終了することができました。

しかし、問題はこの評価およびフィードバックについてでした。コロナ禍以前は、教員による評価(教員2名がすべての録画を視聴して評価)以外にも以下の方法で Moodle の小テスト機能を用いて Peer Evaluation によるフィードバックを取り入れていました。

- (1) ランダムに割り当てられた他の学生の録画を視聴する。
- (2) 担当した学生の発話を Moodle の小テスト(記述問題)に入力する。
- (3) 予想しうる正答、部分点となる予想しうる誤答がすでに Moodle に登録されているため、すぐに自動採点結果を得られ、その結果は、インタビュー試験受験者本人に伝えられる。
- (4) 部分点となった解答、および不正解となった解答について、異議がある場合は Moodle のフラッグ機能を用いて教員に伝える。

この方法は、一斉にインタビュー試験を行うため、模擬患者側の回答パターンが3-4種類と

限られていたため可能でしたが、Zoom での個別インタビュー試験では、問題漏洩の懸念もあり、模擬患者役の回答は毎回変えていました。そのため、Peer Evaluation のやり方を改め、以下の方法をインタビュー試験後の課題として試行しました。

- (1) Zoom 録画されたインタビュー試験の音声ファイルだけを取り出し、それを個別に分離し、Moodle に添付(映像付きの場合、容量の問題で Moodle にすべての学生の試験内容を添付することができなかつたため)
- (2) 学生は自分の音声ファイルを聞きながら、自分の発話内容を Moodle の小テスト(作文問題)に入力し評価基準に従い、各発話に 0-3 点の点数をつける。(Self Evaluation)
- (3) 学生は指定された他の学生の音声を聞きながら、その学生の発話内容を Moodle の小テスト(作文問題)に入力し、(2)と同じ評価基準に従い、各発話に 0-3 点の点数をつける(Peer Evaluation)

この試行に対する細かな分析はまだ十分に行うことができていませんが、(2)の Self Evaluation と(3)の Peer Evaluation の得点差はほぼ 5 点以内におさまっており、教員の同様の Lexical Resource & Grammatical Range and Accuracy(語彙力・文法力と正確性)の評価とも大きな差はありませんでした。もちろん、教員による評価項目には、上記の内容に関する評価基準以外にも、英語の Fluency(流暢性)、Pronunciation(発音)、Coherence(論理的一貫性)などが加わり、最終の評価点は学生の Self Evaluation, Peer Evaluation とは異なりますが、即時的なフィードバック法としては一定の

効果があったと思います。

今回 Zoom によるオンラインインタビュー試験を実施して良かったと思う点は、個別に実施することで、本当の医療面接に近い形で行えたこと、またそのことによって学生のモチベーションが向上したことです。一方で、個別に行うことによって、インタビュー試験に要する教員の負担が増えることに加えて、以下の課題もありました。

- (1) 対面ではないので、画面の向こうで授業資料や事前に準備したメモなどを見ながらインタビューに臨む学生がいた。(ただし、反応までのスピードや視線で教員は容易に判断できる。)
- (2) コロナ禍以前では、インタビューの際のアイコンタクトも重要な評価方法であったが、患者役を見ようとするカメラの位置と画面の位置の差が生じるため、アイコンタクトに関する評価項目は除外せざるを得なかつた。初の試みでかつ手探りの状態でしたので、改良すべき点は多いですが、年度内に LET 九州・沖縄支部ではオンラインによるシンポジウム「コロナ禍における遠隔授業よもやま話」を開催する予定だということですので、先生方と情報を共有しいろいろなお知恵をいただきながら、今後の新たなインタビュー試験およびそのフィードバック法を創造するきっかけとなればと考えています。

#### 参考文献

大下晴美(2020). 「EMP(English for Medical Purposes)における ICT×AI」, LET blog 第 184 号. <http://j-let.org/~wordpress/index.php?itemid=1780#more>

## 2020 年度支部総会報告

LET 九州・沖縄支部支部長  
長 加奈子 (福岡大学)

2020 年度の支部総会は、コロナ禍により、これまで経験したことのない Web での開催となりました。事前に資料をメールにて会員の皆様にお送りし、Webex を用いた Web 会議形式での総会です。何分、初めてのことで戸惑う点もありましたが、ご協力いただきました会員の皆様には、あらためてお礼を申し上げます。

日時:2020 年 7 月 25 日(土) 15 時～

会場:Webex によるオンライン会議

総会の議長には、竹安大先生(福岡大学)が選出されました。

### (1) 2019 年度支部活動報告と支部決算報告について

2019 年度支部事業として、次の様に報告され、承認されました。

#### **【2019 年度活動報告】**

##### 1. 開催行事関連

1) 支部研究大会 2019 年 6 月 1 日(土)

会場:熊本大学

大会テーマ:音声言語として英語をどのように教えるのか

<講演> 日本語母語話者は英語をどのようにに聞いているのか -- ボトムアップ処理と音読の役割 --

講師:菅井 康祐 先生

(近畿大学, LET 関西支部長)

<ワークショップ>

子どもとともにつくる外国語によるコミュニケーションの Learning Plan—「聞きたい」「伝えたい」子どもの思いから始まる学び—

講師:高田 実里 先生

(熊本大学教育学部附属小学校)

<シンポジウム>

テーマ: 音声言語として英語をどのように教えるのか -- Generation Z に向けた新たなアプローチ --

コーディネーター兼パネリスト:

米岡 ジュリ 先生(熊本学園大学)

パネリスト: 園田 恭大 先生

(熊本市立北部東小学校)

宮本 英明 先生

(真和高等学校)

2) 学術講演会・ワークショップ

日時: 2019 年 11 月 9 日 (土)

会場: 西南学院大学 コミュニティーセンターホール

題目: Reading Aloud から Reading Alive へ  
～言葉に息を吹き込もう～

講師: 青谷 優子 先生(日英朗読家・元 NHK WORLD 英語アウンサー)

##### 2. 支部総会・支部評議員会

2019 年 6 月 1 日(土) 熊本大学

##### 3. 支部運営委員会

第 1 回 2019 年 4 月 20 日(土)

福岡大学

第 2 回 2019 年 11 月 9 日(土)

西南学院大学

第 3 回 2020 年 2 月 1 日(土)

福岡大学

##### 4. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2019 年 5 月 1 日 第 71 号発行

2019 年 11 月 1 日 第 72 号発行

## 5. LET 九州・沖縄支部紀要

2020年3月1日 第20号発行

引き続き、2019年度支部決算報告書が報告され、承認されました。決算報告書の詳細については、別紙資料①をご覧ください。

### (2) 2020年度支部事業計画案

2020年度支部事業計画案が次のように提案され、承認されました。

#### 【2020年度活動計画】

##### 1. 開催行事関連

1) 支部大会 開催なし（全国大会も次年度に延期）

2) 学術講演会・ワークショップ

日時：2020年9月（予定）

##### 2. 支部総会・支部評議員会

2020年7月

##### 3. 支部運営委員会

第1回 2020年6月

第2回 2020年9月

第3回 2021年2月

##### 4. LET 九州・沖縄支部「支部だより」

2020年5月 第73号発行

2020年11月 第74号発行

##### 5. LET 九州・沖縄支部紀要

2021年3月1日 第21号発行

引き続き、2020年度支部予算案が提案され承認されました。詳細については、別紙資料②をご覧ください。

### (3) LET 九州・沖縄支部紀要執筆規定

#### および編集規定の改定について

LET 九州・沖縄支部紀要について、これまで「編集規定・執筆規定」となっていたものを、

本部機関誌にならない、別紙資料③・別紙資料④のように「投稿規定」「編集規定」とそれぞれ別に新たに決めました。また、学生会員および本務校を持たない会員が単独で投稿する際の投稿料を減額することを決めました。規定の詳細については、別紙資料③・④をご覧ください。なお、昨今、マスコミ等でも問題となっている「研究倫理」について、支部としてどのように明文化するかについて、今後、支部紀要編集委員会において検討していただくことになりました。

### (4) LET 九州・沖縄支部学術賞の制定に

#### ついて

九州・沖縄支部設立50周年を記念して、新たに「外国語教育メディア学会九州・沖縄支部賞」を新設することが決まりました。支部賞は、特に若手研究者を対象とする「奨励賞」と支部紀要に掲載された優秀な論文に与える「論文賞」の2つです。自薦、他薦問わず推薦を受け付けます。今年度の締め切りは2021年2月末日です。奮って推薦していただければと思います。詳細につきましては、別紙資料⑤をご覧ください。

#### 【報告】

##### (1) 2020-2021年度支部役員について

2019年度末にメール稟議において承認されました支部役員につきまして、別紙資料⑥の通り報告されました。

##### (2) 全国研究大会について

2020年度は、九州・沖縄支部がホスト支部となり全国研究大会が開催される予定でしたが、コロナ禍により中止となり、2021年度に延期になったことが報告されました。

## 2020 年度外国語教育メディア学会理事会報告

LET 九州・沖縄支部副支部長  
植田 正暢 (北九州市立大学)

今年度の理事会は8月29日にオンラインにて開催されました。審議事項が13件、報告事項が6件ありましたが、内容を整理して簡潔にご報告したいと思います。なお、以下の番号は実際の理事会における議案番号と一致しませんことをご了承ください。

### 【審議事項】

#### 1) 2021 年度第 60 回全国研究大会の開催について

大会の準備状況と問題点に関して植田大会実行委員長から説明があった後、森田会長から支部長連絡会での議論の内容が伝えられ、審議の結果、以下のことが決定された。

- ・ 大会期日は2021年8月20日(金)～8月22日(日)とする。
- ・ 大会はオンラインでの開催とし、その旨総会に提案する。
- ・ 企画内容については、現在九州・沖縄支部で準備しているものを継続して進める。
- ・ オンラインでの開催方式や支部・本部との役割分担、WG の設置等の詳細については、支部長連絡会(植田大会実行委員長を含む)を開催し決定する。基本的には詳細の決定を支部長連絡会に一任するが、会議の議事録等を通して、決定事項は理事会に報告することとする。

#### 2) 2020 年度外国語教育メディア学会 (LET) 学会賞について

湯舟学会賞選考委員長より、学術賞に山西博之氏(中央大学)の業績、教材開発賞に今尾康祐氏(大阪大学)の業績を推薦することが説明され、承認された。なお、今後の検討課題として、以下のような意見が出された。

- ・ 内規が定める「教材」の範囲が不明瞭なため、内規の整備が必要ではないか。
- ・ 論文賞の「該当者なし」が続いているため、何らかの方策が必要ではないか。
- ・ 選考過程において、対象となる賞を論文賞から奨励賞に変えるなどの措置はできないか。(ただし、この案については、前会長から「現在の規程では実現は難しい」との結論が出されている。)

#### 3) 学会機関誌の Scopus への登録について

森田会長より、学会誌の Scopus Journal List 登録に向けて、条件調査をするための WG の発足が提案された。また、取りまとめ役として水本理事に打診中であり、調査の期間は1年くらいとすることが説明された。審議の結果、WG を発足することが承認された。

#### 4) 会則および理事会内規の改定について

2019 年度理事会および会長・副会長会議において改訂された会則および理事会内規の確認が行われた。会則において「会長副会長会議」と「会長・副会長会議」の表記のゆれがあったため、「会長・副会長会議」にすることが決まった。また、会則第12条第5項

において「支部長連絡会は、会長、各支部支部長、各支部から選出されたもの1名および本部事務局長により構成され、本会運営を円滑に推進するための調整機関である。」と定められているが、現状にそぐわないことから「支部長連絡会は、会長、各支部支部長、各支部事務局長および本部事務局長により構成され、・・・」に改訂することとなった。

2019年年度会長・副会長会議で改訂された理事会内規第13条[支部長連絡会]の第4項「支部長連絡会は、原則として調整機関とする。」は会則と重複することから削除することとなった。また、第5項「支部長連絡会は、原則として各支部持ち回りで開催する。」も削除することとなった。継続審議となっていた第7項「開催担当支部以外の支部の出席者については2名分の旅費補助を本部がおこなう。」も削除することとなった。さらに第2項はこれまで「支部長連絡会は、会長、副会長、各支部から選出されたもの1名、本部事務局長により構成される。」となっていたが、会則の変更に合わせて「支部長連絡会は、会長、各支部長、各支部事務局長、本部事務局長により構成される。」にすることが提案され、決定された。

#### **5) LET本部体制・全国大会実行委員会体制 について(継続審議)**

審議事項6)で決定された2021年度全国研究大会のあり方を議論する支部長連絡会の中で、2022年度以降の全国大会における各支部の関わり方についても議論することとなった。

#### **6) 名誉会長推薦・承認プロセスについて(継続審議)**

2018年度理事会議事録抜粋を基に、2018年度理事会の決定事項を見直し、以下のことが決定された。

- ・ 名誉会長推薦の発議はその人物の所属支部が行う。
  - ・ 名誉会長は全国レベルでの委員や理事に就任しないこととする。(支部レベルでは構わない。)
  - ・ 会則上、名誉会長と名誉会員の表記があり、名誉会長の位置づけ等については、本部事務局預かりとし、継続審議とする。
- 上記以外に、前年度の活動報告および決算、今年度の事業計画および予算案、2019年度理事会議事録、2020年度に各支部が本部に納入する金額の算定について審議され、承認された。

#### **【報告事項】**

##### **1) 本部報告**

- ・ 見上事務局長より2020年度各支部選出役員のリスト、正会員数、賛助会員数について報告がなされた。正会員数の計算方法の変更に伴い、会員数が前年度より低くなっていることが説明された。また、今年度の賛助会員数は23社にとどまっており、来年度以降も厳しい見通しであることが説明された。
- ・ 千葉事務局次長より学会機関誌57号の作業状況について説明があり、前事務局からJ-Stage搭載作業のためのログイン情報等が移管されれば掲載できる状態であることが説明された。
- ・ 森田会長より8月3日に逝去された河野守夫元関西支部長に対して慶弔事規程に基づいて弔意を表すことが報告された。

## 2)各種委員会報告

- ・ LET blog 編集委員会  
阪上 LET blog 編集員長より、1年間の活動報告があった。発行、配信希望者の登録はつつがなく行われている。
- ・ 国際交流委員会  
小野国際交流委員長より、昨年度開催の FLEAT 7 への協力に対する謝意が述べられた。また、2021 年度全国大会における IALLT 会員を対象とした発表募集について検討中であることが述べられた。
- ・ 機関誌編集委員会  
機関誌編集事務局の小倉委員より、機関誌編集委員会議事録を基に報告と提案があり、以下の項目が承認された。
  - ・2019 年度 10 月に APA マニュアルが第 7 版になったことを受けて、59 号よりテンプレートを変更する。
  - ・学会機関誌編集委員会規程の中に「事務局」と「事務局長」という言葉が混在しているので、「事務局」に統一する。
  - ・第 58 号のブラインド化作業のため、事務局を1名増員する。ただし、第 59 号以降については、元に戻すこととする。増員する人員の選定については本部事務局が行う。なお、編集委員会では、編集委員の各支部選出数について、現在の一律各支部 4 名ではなくて、各支部の会員数や投稿数に合わせて調整する案が出されており、継続して審議中であることが報

告された。

## 3)ネット稟議承認事項

2020 年 6 月 6 日に審議依頼があり、6 月 11 日に承認された以下の 2 件の議案について確認が行われた。

審議事項 1:大修館『英語教育』特集への学会の対処について

審議事項 2:本部サイトにおける賛助会員への対応変更について

## 4)その他

- ・全国研究大会中の託児所の設置についての検討の必要性が提案され、来年度の全国研究大会のあり方を話し合う支部長連絡会の中で検討することとなった。
- ・オンラインでの支部研究大会について、各支部で連絡を取り合い、他支部の会員の参加を積極的に促すこととした。また、会長より、本部 HP への情報掲載のため、各支部の研究会、研究大会の情報提供の要請があった。

上記以外に、各支部の 2019 年度事業報告と決算および事業計画と予算について報告がなされた。また 2022 年度以降の全国研究大会の担当支部について報告があった。

以上、ご報告します。

## 事務局からのお知らせ

### 【新会員(2020年10月20日現在)】

<正会員>

山内 勝弘(西南学院大学)

### 【2020年度ワークショップ】

今年度はワークショップ開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で開催できずにあります。

現在、内容や形式を調整中でございます。決定いたしましたら、メーリングリストや支部HPにてお知らせいたします。

### 【会費納入のお願い】

2020年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されていると思います。まだお振り込みいただいていない会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします(個人会員・団体会員は 6,000 円、

学生会員は 3,000 円)。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただく場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力お願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部のHPより変更していただきますようお願い申し上げます。

### 【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

### 【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江2丁目 5-1 研究棟 302 号

熊本学園大学

林幸代研究室内

## 編集後記

COVID-19 による感染拡大防止のため、支部総会や理事会がオンラインで行われています。全国研究大会もオンライン開催が決定されました。学会活動も今後様変わりしそうな予感がします。今回は大分大学の天下先生にこのような状況下で、オンライン授業の実践を報告いただきました。貴重な情報になると思います。ありがとうございます。(茂)

別紙資料① 2019年度支部決算報告書

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 2019年度決算報告

2020年3月31日

収入の部

項目	予算	決算	内 訳	
前年度繰越金	346,820	346,820		
学会費	783,000	783,000	観入会員 @6,000 ×122件 学生会員 @3,000 ×3件 団体会員 @6000 ×7件	1件 (2017) , 6件 (2018) , 125件 (2019) 732,000 9,000 42,000
雑収入	256,000	360,464	1. 展示協賛料 200,000 2. 広告掲載料 55,000 3. 過払い返金 35,964 4. 紀要投稿料 54,000 5. 学会当日会員資料代 15,500	10社 (10区画) 支部紀要広告協賛 (第19号 3社) 発表要綱印刷代過払い返金分 支部紀要第20号投稿料 支部研究大会当日会員資料代 (1000円×10名、500円×2名) 学術講演会当日会員資料代 (500円×9名)
支部積立金より繰入	0	0	支部積立金より繰入 (2020年3月31日付 支部積立金残高: 2,000,562円)	
合 計	1,385,820	1,490,284		

支出の部

項目	予算	決算	内 訳
支部大会開催費	380,000	326,607	プログラム・発表要綱印刷費、パネリスト旅費・宿泊費、講演講師謝金、懇親会主催者負担分、学生アルバイト謝金、実行委員会およびアルバイトお弁当代
学術講演会・ワークショップ	20,000	30,676	講師謝礼・交通費、チラシ作成、備品
印刷費	200,000	256,500	支部紀要第18号 226,800円、封筒 29,700円
通信費	100,000	71,245	郵送料
会議費	50,000	50,858	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部評議員会等の開催に伴う経費
旅費交通費	350,000	225,750	支部運営委員会、紀要編集委員会の開催に伴う旅費補助
事務用品費	15,000	6,514	ラベルシール、ラミネートフィルム、ケーブル
雑給	50,000	48,000	事務局謝礼 48,000円
支部分担金	133,920	133,000	744,000円×18% (1000円未満は切り捨て)
業務委託費	60,000	113,017	会費徴収委託料
支払い手数料	5,000	3,044	振り込み手数料
支部積立金	0	0	支部積立金利子分
支部運営予備費	21,900	0	
全日大会開催費	0	24,159	イラスト謝礼、チラシ作成、サーバー代
次年度繰越金	0	200,914	
合 計	1,385,820	1,490,284	

以上、報告します。

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長

林 幸代

以上、相違ありません。

会計監査

松村 徹

会計監査

岡田 美鈴

別紙資料② 2020年度支部予算

外国語教育メディア学会（LET）九州・沖縄支部 2020年度予算

2020年4月1日

収入の部		2020年4月1日～2021年3月31日	
項目	予算額	内訳	
一般会費	738,000	個人会員 @6,000 ×113件	678,000
		学生会員 @3,000 ×6件	18,000
		団体会員 @6,000 ×7件	42,000
雑収入	81,000	1. 展示協賛料	0
		2. 広告掲載料 支部紀要第20号への広告掲載料	80,000
		3. 学会当日会費	5,000
		4. 紀要投稿料 支部紀要第20号への投稿料	0
		5. 寄付金その他 寄付、利息等	1,000
支部積立金より繰入	1,000,000	(2020年3月31日付支部積立金残高：2,000,562円)	
<b>収益計(①)</b>	<b>1,819,000</b>		
繰越金(②)	200,914		
<b>収益計(①+②=③)</b>	<b>2,019,914</b>		

支出の部			
項目	予算額	内訳	
印刷費	200,000	支部紀要第21号、封筒等の印刷	
通信費	70,000	送料	
旅費交通費	200,000	支部運営委員会、紀要編集委員会等への参加補助	
業務委託費	90,000	会費徴収委託費、J-STAGE掲載業務委託	
会議費	50,000	支部運営委員会、紀要編集委員会、支部大会実行委員会、評議員会等の開催に伴う経費	
支部大会開催費	0	1. 大会開催準備金	0
		2. 印刷費 支部研究大会プログラム・発表要綱	0
		3. 通信費	0
		4. 旅費交通費 講師旅費等	0
		5. 謝礼 講演者謝金	0
		6. 雑給 アルバイト謝金	0
		7. 懇親会費	0
		8. 飲食費	0
		9. 会場費	0
		10. 手数料・その他	0
雑給	20,000	事務局謝礼、事務局アルバイト	
学術講演会・ワークショップ	20,000	秋季1回(ワークショップ)	
事務用品費	10,000	宛名ラベル、領収書、PPC用紙、文具等	
支払手数料	5,000	振り込み手数料等	
広告宣伝費	5,000		
支部分担金	140,940	本部への支払い (18%×783,000)	
支部運営予備費	13,060		
全国研究大会開催費	1,000,000		
<b>費用計(④)</b>	<b>1,824,000</b>		
次期繰り越し(⑤)	195,914		
<b>費用計(④+⑤=⑥)</b>	<b>2,019,914</b>		

外国語教育メディア学会九州・沖縄支部

事務局長 林 幸代

## 別紙資料③ 九州・沖縄支部紀要投稿規定

### 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 支部紀要 投稿規定

- 第1条 本規定は、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部(以下、本支部)の紀要(以下、本誌)の投稿に関して定めたものである。
- 第2条 本誌へ投稿する者は、本支部会員であり、投稿時年度の会費を納入済みでなければならない。但し、共著者として他支部会員を執筆者の過半数を超えない範囲で加えることができる。
- 第3条 投稿できる研究論文、実践報告およびその他の報告(研究ノート、教材解説、書評等)は未公開のものに限る。  
2 研究論文、実践報告およびその他の報告(研究ノート、教材解説、書評等)の別は執筆者が投稿申込時に指定することとする。
- 第4条 投稿する原稿は、以下に定める様式、および外国語教育メディア学会ホームページ上のテンプレート・チェックリストに従って執筆されなければならない。  
1) 和文・英文とも横書きとし、A4 縦白色の用紙に、天地左右の余白をそれぞれ 3 センチとる。使用する書体は、原則として和文の場合「明朝体」、英文の場合「Times (New Roman)」とする。文字の大きさは和文の場合 10.5 ポイント、英文の場合 12 ポイントし、1ページの行数を 35 行とする。和文の場合は1行 40 字とする。  
2) 投稿原稿の書式は、特に指定のない限り、Publication Manual of the American Psychological Association (最新版)に従うこととする。  
3) 本文で使用する言語に関わらず、200 語以内の英文の要約を付けるものとする。  
4) その他の論文中の書式については、本会ホームページ上のテンプレートに従って執筆する。  
5) 図・表(写真など)は本文中に入れる。白黒印刷されるため、カラー印刷を避けるとともに、フォントサイズに留意する。  
6) 投稿される論文等の原稿は 15 ページ以内を基準とし、20 ページを上限とする。ただし編集委員会が特に求めた特殊な原稿はこの限りではない。
- 第5条 投稿者は当該年度の 10 月末日までに、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部事務局内編集委員会宛に書留郵便にて審査用論文4部を送付するものとする。なおその内3部については、著者名と所属を原稿に記載しない。  
2 投稿論文送付にあたり、別紙に、「研究論文」、「実践報告」あるいは「その他の報告」の投稿原稿の種別、住所、氏名、所属、連絡先の電話・FAX 番号、メールアドレスを記入して、原稿と共に編集委員会宛に提出する。
- 第6条 投稿原稿は、査読者(以下、査読担当者)による査読審査を経て、査読内規に基づき編集委員会において掲載可否が決定される。
- 第7条 審査結果は編集委員会より提示された期日までに編集委員会より執筆者あるいは執筆代表者に通知する。  
2 編集委員会によって修正を求められた場合、あるいは再審査と判断された場合は、所定の期日までに修正原稿を提出しなければならない。その際、査読担当者からのコメントへの対応を列挙したもの(書式自由)を併せて提出する。
- 第8条 本誌に掲載された論文等の著作権はその副次的使用権を含め、全て本支部が所有する。  
2 本誌に掲載された研究論文・実践報告等を、本支部の許可なく無断で複製あるいは転載することはできない。複製あるいは転載する場合は、本支部ホームページ上の書式に従って申請を行わなければならない。
- 第9条 投稿論文のもととなる研究は、日本学術振興会の『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』(2015 年)を踏まえたものでなくてはならない。
- 第10条 掲載論文の投稿者には、掲載版 PDF 原稿、および執筆者数に関わらず 1 本につき 20 部の抜き刷りを贈呈する。贈呈分以上の印刷が必要な場合は、執筆者の負担とする。
- 第11条 印刷に際し特別に費用を要する原稿については、執筆者の負担とする。
- 第12条 投稿に関する通信は全て編集委員会事務局宛とする。  
2 編集委員会事務局は、掲載可否判定に関する問い合わせには応じない。
- 第13条 本規定の変更は、運営委員会の三分の二以上の議決を経た後、総会の承認を得なければならない。

## 附 則

この規程は、2020(令和2)年7月25日から施行する。

### 別紙資料④ 九州・沖縄支部紀要編集規定

#### 外国語教育メディア学会九州・沖縄支部 支部紀要 編集規定

- 第1条 本規定は、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部(以下、本支部)の紀要(以下、本誌)の編集および発行に関して定めたものである。
- 第2条 本誌は外国語教育メディア学会九州・沖縄支部の紀要として、毎年少なくとも1回発行する。ただし、掲載論文の数、その他の事由によって、支部運営委員会の承認を得て発行を調整することがある。
- 第3条 本誌は原則として本支部会員による研究論文、実践報告およびその他の報告(研究ノート、教材解説、書評等)を掲載することとする。
- 第4条 投稿原稿は、査読者による査読審査を経て、査読内規に基づき編集委員会において掲載可否が決定される。
- 2 編集委員会は査読審査の結果に基づき、投稿原稿の修正を投稿者に求めることができる。
- 3 査読者が本誌に研究論文、実践報告あるいはその他の報告を投稿した場合は、当該論文の査読審査を担当しないこととする。
- 4 編集委員が本誌に研究論文、実践報告あるいはその他の報告を投稿した場合は、当該論文の編集業務を担当しないこととする。
- 第5条 印刷に際し、その費用の一部を次のとおり、執筆者の負担とする。1人10ページ以内で15,000円を基準とし、10ページを超える分については1ページあたりに2,000円がプラスされる。なお、特別に費用を要する原稿については、執筆者の負担とする。なお学生会員および本務校を持たない会員が単著で投稿する論文については、前述の半分の額とする。
- 第6条 本誌に掲載された論文等の著作権はその副次的使用権を含め、全て本支部が所有する。
- 2 本誌に掲載された論文等を、本支部の許可なく無断で複製あるいは転載することはできない。複製あるいは転載する場合は、文書による承認を受けなければならない。
- 3 支部により電子化された著作物を、執筆者が自身の所属機関のリポジトリ等に登録する場合は、本支部の承認は不要とする。ただしその場合は、電子版正本のDOI(Digital Object Identifier)を記載し、電子版正本へのリンクが正しくできるよう留意することとする。
- 第7条 編集業務に関する通信は全て外国語教育メディア学会九州・沖縄支部事務局内編集委員会宛とする。
- 第8条 本規定の変更は、運営委員会の三分の二以上の議決を経た後、総会の承認を得なければならない。

## 附 則

この規程は、2020(令和2)年7月25日から施行する。

### 別紙資料⑤ 九州・沖縄支部学術賞

#### 外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部学術賞 規定

- 第1条 本規定は、外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部(以下、本支部)が、本支部会員のより一層の研究・実践活動を奨励し、本支部の質的向上をはかるため、会員の顕著な研究・実践活動等の業績に対し顕彰を行うために関わる事項を取り決めたものである。

- 第2条 本賞の名称は、「外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部学術賞」とし、以下の部門を設ける。
- イ、「外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部奨励賞」
- ・本支部個人会員で、推薦時から遡って3年以内に外国語教育メディア学会九州・沖縄支部紀要(以下、支部紀要)に、単独著者もしくは第1著者として掲載された優秀な論文を持つ者、もしくは九州・沖縄支部研究大会において優秀な研究発表、実践報告を行った者。
  - ・研究活動を始めてから、おおよそ10年以内の者。
- ロ、「外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部論文賞」
- ・本学会個人会員による研究(単著または共著)で、推薦の前年度に支部紀要に掲載された優秀な論文(研究論文または実践報告)。
- 第3条 各賞の受賞者にはその栄誉を祝し、表彰状及び記念品を授与する。
- 第4条 九州・沖縄支部学術賞の選考のため、「外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部学術賞選考委員会」を設置する。
- 第5条 外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部学術賞選考委員会は、選考委員長および選考委員若干名で構成される。
2. 選考委員長および選考委員若干名は、支部長が推薦し、九州・沖縄支部運営委員会(以下、支部運営委員会)の承認を得なければならない。
  3. 選考委員(委員長を含む)の任期は、原則2年とし、再任を妨げない。
  4. 選考委員(委員長を含む)と候補者との間に利益相反がある場合は、委員がこれを申告し、該当候補者の選考から外れるものとする。尚、該当候補者以外の選考過程には、引き続き従事できるものとする。
  5. 選考委員(委員長を含む)および九州・沖縄支部事務局は、選考過程および候補者に関する情報の守秘義務を負う。
- 第6条 九州・沖縄支部学術賞の候補者は、個人会員からの推薦に基づき決定する。
2. 推薦にあたって、候補者を推薦する個人会員は、原則として2月末日までに九州・沖縄支部事務局に推薦書(対象者氏名、所属先名、授与対象業績名、詳細な推薦理由を明記。書式自由)をメールにて送付する。
  3. 尚、自薦、他薦を問わない。
- 第7条 九州・沖縄支部学術賞の選考は、推薦書に基づき、外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部学術賞選考委員会で行い、支部運営委員会の承認を得て決定する。
- 第8条 本規定の変更は、支部運営委員会の三分の二の議決を経た後、総会の承認を得なければならない。

#### 附 則

この規程は、2020(令和2)年7月25日から施行する。

#### 別紙資料⑥ 2020-2021年度支部役員

2020-2021年度 外国語教育メディア学会 九州・沖縄支部役員

##### 名誉支部長

池浦貞彦(福岡教育大学名誉教授)

##### 事務局長

林 幸代(熊本学園大学)

##### 支部長

長 加奈子(福岡大学)

##### 理事

長 加奈子(福岡大学)

##### 副支部長

植田正暢(北九州市立大学)

植田正暢(北九州市立大学)

古村由美子(長崎大学)

古村由美子(長崎大学)

島谷 浩(熊本大学大学院)

支部幹事

大藪修一(九州産業大学)  
佐々木有紀(福岡大学)

会計監査

岡田美鈴(宇部工業高等専門学校)  
松崎 徹(筑紫女学園大学)

運営委員(50音順)20名

麻生雄治(大分大学)  
石井和仁(福岡大学)  
植田正暢(北九州市立大学)  
大下晴美(大分大学)  
大藪修一(九州産業大学)  
大津敦史(福岡大学)  
川浪一也(福岡大学附属大濠中学・高等学校)  
佐々木有紀(福岡大学)  
島谷 浩(熊本大学大学院)  
竹野 茂(宮崎公立大学)  
田上優子(福岡女子大学)  
長 加奈子(福岡大学)  
筒井英一郎(北九州市立大学)  
Joseph Tomei(熊本学園大学)  
中島 亨(福岡教育大学)  
中野秀子  
(九州工業大学大学院生命体工学研究科研究員)  
仲山雄二(熊本県立芦北高等学校)  
林 幸代(熊本学園大学)  
古村由美子(長崎大学)  
米岡ジュリ(熊本学園大学)

評議員(50音順)30名 \*は運営委員を兼ねる

麻生雄治\*(大分大学)  
石井和仁\*(福岡大学)  
植田正暢\*(北九州市立大学)  
大下晴美\*(大分大学)  
大藪修一\*(九州産業大学)  
大津敦史\*(福岡大学)  
奥田阿子(長崎大学)  
奥田裕司(福岡大学)  
柿元悦子(九州産業大学)  
柏木哲也(北九州市立大学)  
川浪一也\*(福岡大学附属大濠中学・高等学校)  
佐々木有紀\*(福岡大学)  
島谷 浩\*(熊本大学大学院)  
竹野 茂\*(宮崎公立大学)  
田上優子\*(福岡女子大学)

長 加奈子\*(福岡大学)  
筒井英一郎\*(北九州市立大学)  
綱 智子(長崎県立大学非常勤)  
Joseph Tomei\*(熊本学園大学)  
中島 亨\*(福岡教育大学)  
中野秀子\*  
(九州工業大学大学院生命体工学研究科研究員)  
仲山雄二\*(熊本県立芦北高等学校)  
新田よしみ(福岡大学)  
林 幸代\*(熊本学園大学)  
林 千晶(福岡女学院大学)  
古村由美子\*(長崎大学)  
冬野美晴(九州大学)  
山本佳代(宮崎大学)  
雪丸尚美(北九州市立大学)  
米岡ジュリ\*(熊本学園大学)

機関誌編集委員

中島 亨(福岡教育大学)  
岡田美鈴(宇部工業高等専門学校)  
志水俊広(九州大学)  
東矢光代(琉球大学)  
冬野美晴(九州大学)

国際交流委員

Joseph Tomei(熊本学園大学)

学会賞選考委員

中野秀子  
(九州工業大学大学院生命体工学研究科研究員)

ブログ担当委員

麻生雄治(大分大学)  
筒井英一郎(北九州市立大学)

支部紀要編集委員

古村由美子(長崎大学)  
荒木瑞夫(宮崎大学)  
大藪修一(九州産業大学)  
柏木哲也(北九州市立大学)  
田上優子(福岡女子大学)

「支部だより」編集委員

大下晴美(大分大学)  
竹野 茂(宮崎公立大学)